

学年	教科等	単元名	児童	場所	指導者
4年	総合的な学習の時間	「旭山動物園とわたしたち」	4年1組34名	4年1組教室	近田 歩実

育てたい資質・能力

◎総合的な学習の時間において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

探究的な学習を通して身に付ける課題を見だし解決する力

（思考力・判断力・表現力等）

〈本時にかかわる主な資質・能力〉

旭山動物園のメッセージに対して、体験を通じて課題を見いだす力

1 単元について

(1) 単元の目標と評価規準

【単元の目標】

“旭山動物園のメッセージ”に対して、動物との“触れ合い”や“観察”を通して、その命の素晴らしさや尊さを実感し、その大切さについて自分なりに考え、表現する。

本単元は、学習指導要領「総合的な学習の時間」の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

を受けて、本校で内容を設定したものである。

本単元のテーマ構成の視点は、

- ・生命にかかわること（「命の輝き」について考える）
- ・町づくりにかかわること（地域にとっての旭山動物園の意味について考える）
- ・情報にかかわること（メディアで報道されていることと自分で調べたことの比較から）

の三点である。

単元計画の一次では、「触れ合い体験」と「触れ合えない体験」といった実体験を通じて事象と出会い、そこから生まれた疑問・気付き・予想から課題を設定していく。

二次では、動物園で働く人と交流したり、調べ学習を行ったりすることで旭山動物園のメッセージ“命の輝き”についての情報収集を行い、情報の整理・分析を行う。調べ学習では、書籍・インターネット・DVD・旭山動物園だよりなどを活用する。友達同士や旭山動物園で働く人との情報交流を取り入れることで、価値ある情報を共有し、思考の深まりにつながると考えた。

三次では、調べたことや自分の考え、体験を通じて感じたことを基に、旭山動物園の紹介ポスターを作成し、保護者や旭山動物園に発信することで、目的意識の継続化を目指した。“旭山動物園のメッセージ”である“命の輝き”を追求することで、命の大切さや尊さを4年生なりに考えを深めていくことをねらいとしている。

【評価規準】

【学習方法に 関すること】	【自分自身に 関すること】	【他者や社会とのかか わりに関すること】	【学習テーマへの 関心・意欲】
<ul style="list-style-type: none"> 旭山動物園のテーマ「命の輝き」についての疑問から課題意識を持ち、自ら課題を設定し、見通しを持って取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとっての命の輝きとは何か考え、かけがえのない命と自分とのかわりについて考え、未来への夢や希望を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級の仲間や地域の人たちと交流しながら旭山動物園のよさに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 旭山動物園やそのテーマである「命の輝き」に関心を持ち、主体的に関わろうとする。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、2年生の生活科で「旭山動物園のモルモットの飼育」を行い、動物と触れ合う経験をしてきており、動物への興味・関心の高い児童が多い。生き物に触れ合う経験は、理科の授業や普段の生活で植物や昆虫に触れる程度ではあるが、生き物の特徴に着目し、愛着をもって関わる様子が見られ、関心も高い。

また、事前のアンケート調査によると、全員が旭山動物園に行ったことがあると回答しており、旭山動物園は児童にとって馴染みのある地元の動物園である。

さらに、生まれ育った旭川に対する関心が強い児童が多く、「知りたい」「調べたい」という意欲を強く持っている。調べ学習に対する関心も高く、国語科や社会科で思考ツールを活用してまとめる経験もある。プレゼンテーションとして表現することにおいては、抵抗感をもつ児童が見られるため、相手を意識して、伝えたいことを倫理的に表現していくことを学ばせたい。

(3) 指導の手立て

本単元の一次では、「触れ合い体験」と「触れ合えない体験」を体感することで、事象と出会う。実際に動物たちと触れ合うことで、その温かさや重たさ、心拍数からなど“生き物”を感じさせる。触ってみたい観察してみたいすることで生まれた疑問・気付き・予想から、課題への興味・関心を高めていく。また、動物園で働く人と交流することで、自分の感覚とのズレを感じたり、新たな視点に気付いたりするきっかけとしたい。体験活動から感じた違和感（触れ合える動物と触れ合えない動物の違いは何だろう）をもとに、旭山動物園のメッセージについて追及意欲を高めていく。

二次では、動物園の人と交流したり、調べ学習を行ったりして課題に迫る。その際、書籍やインターネット、DVDや旭山動物園だより、パンフレットなどを活用する。また、自分なりに調べたことを交流する場を設け、情報や考えの共有化を図る。その際、思考ツールの活用等により、分かりやすい整理・分析ができるように配慮する。

三次では、保護者・動物園で働く人に伝えるというまとめを設定し、目的意識を継続させたい。これまでの学習をもとにした「旭山動物園紹介ポスター」の作成を行い発表する場を設ける。インプットしてきた情報や体験をアウトプットしていくことによる思考の深まりに期待する。

2 単元の指導計画

【35時間扱い 本時2 / 35時間】

次	時	○学習活動	教師の評価規準（評価方法） ◇到達が不十分な児童への指導の手立て	
一次	事象との出会い (8)	旭山動物園について詳しくなろう。		
		①	○旭山動物園について交流する。 (知っていることや知らないこと)	㊦知っている情報を交流したり，知らないことを考えたりして，学習についての意欲を高めている。(観察・発言)
		② 本時	○旭山動物園出張授業で「動物との触れ合い体験」を行う。 ○次時の「触れ合えない体験」の見通しをもつ。	㊦実際に見て，触れて，その動物の特徴や生き物のあたたかさを実感している。(観察・発言) ㊦動物と触れ合って気付いたことを書いている。(観察・ワークシート) ◇動物をよく観察したり，触れ合ったりするように声掛けをする。
		③ ～ ⑦	○旭山動物園見学で「動物と触れ合えない体験」を行う。 (ペンギンの散歩)	㊦「動物に触れ合えない」という状態を理解している。(観察・発表) ㊦体験を通して気付いたことを書いている。(観察・ワークシート) ◇「触れ合い体験」の時とどう違うか考えさせる。
	⑧	○2つの共通体験を通して感じた疑問を交流する。 (旭山動物園のメッセージ)	㊦旭山動物園が入園者に伝えたいことに気付く。(観察・発言・ワークシート) ◇2つの体験の違いについて考えさせる。	
二次	課題をつかむ (6)	⑨ ～ ⑭	旭山動物園のメッセージについて調べよう。	
	解決へ の見通しをもつ (2)	⑮ ⑯	○旭山動物園のメッセージ「命の輝き」について考える。 (課題の設定) (ホームページ，書籍，DVD等)	㊦「命の輝き」に関心を持ち，調べ学習を進めている。(観察・意見文) ◇さまざまな調べ方があることを伝える。
三次	追究・ 解決	⑰ ～ ⑲	旭山動物園のよさを伝える“紹介ポスター”を作ろう。	
	交流 まとめ (13)		○課題について調べる。 ○旭山動物園飼育展示係の方と交流する。 ○課題についてポスターにまとめる。	㊦「命の輝き」について考えている。(観察・ワークシート) ㊦学級の仲間や動物園の方と交流し旭山動物園のよさに気付くことができる。(観察・発言・ワークシート) ㊦旭山動物園の在り方や「命の輝き」について自分なりに考えまとめている。(ワークシート) ◇調べたことを整理するように伝える。ポスターの書き方例を提示する。
	振り返り・ 吟味 (6)	⑳ ～ ㉓	○旭山動物園について調べ，まとめたことを保護者に伝える。 ○旭山動物園飼育展示係の方と交流する。 ○学んだことをまとめる。	㊦調べたことについて，自分の言葉で伝えようとしている。(観察・発言) ㊦旭山動物園の未来や，これから自分にできることについて考えている。(観察・発言・ワークシート)

3 本時の学習

(1) 本時の目標

旭山動物園の動物と触れ合い，動物の体温や重さ，心拍数や触感などを実感し，動物への関心を高める。

(2) 本時の展開【35時間扱い2／35時間目】

***一単位時間レベルB-①【課題意識重視】**

	子どもの活動	思考	□教師の働きかけ ◆評価（評価方法）
導入 5分	1 課題を確認する。	全体	
	旭山動物園こども牧場の動物たちを知ろう！		
展開 25分	2 飼育展示係さんと出会う。	全体	□旭山動物園の飼育展示係さんを紹介する。
	3 子ども牧場の動物たちと出会う。	全体	□飼育展示係さんに動物たちの紹介をしてもらおう。 *数種類の動物と“触れ合い”，動物の体温や重さ，心拍数や触感などに注目することで，動物への興味・関心を高める。
	4 動物たちと触れ合い，気付いたことをメモする。 「あたたかい（体温の違い）」「ふわふわしている」「重たい」「心拍数が多い」 「気持ちいい」「ウサギよりモルモットのほうが〇〇だ」	個	□「触れ合って気がついたことをたくさんメモしよう！」 □アレルギー調査から，気になる児童については，担任が注意して様子を観察する。 □それぞれの動物の特徴や，生き物のあたたかさに気付かせる。
	5 体験活動をして不思議に感じたことや旭山動物園についてもっと知りたいことをワークシートに書く。 「動物によって特徴が違った」「思ったよりも体温が高かった」「旭山動物園の他の動物にもあってみたい」「どうして〇〇は▲▲なんだろう」「2年生の時よりも〇〇だ」	個	□「動物と触れ合って気付いたことや，旭山動物園についてもっと知りたいことを書きましよう。」 ◆積極的に動物を見て，触れて，その動物の特徴や生き物のあたたかさを実感し，感想をもっている。（観察，発言，ワークシート）
	6 全体で交流する。	全体	改善のポイント 体験前（2年生「生活科」の時に感じたことや予想）と体験後の違いに着目する。 *友達同士や旭山動物園の飼育員さんと交流することで，より理解や関心を深める。

終末 5分	7 学習を振り返り、今後の学習の見通しをもつ。	全体	□飼育員さんから、「ぜひ今度は旭山動物園に来てほしい」とメッセージを送る。 (次回は触れ合えない体験)
	<p>動物にはそれぞれの特徴があるんだな。生き物ってあたたかいな。 旭山動物園には他にどんな動物がいるのかな。この後の体験も楽しみだ！</p>		

(3) 本時の評価

◇評価基準の具体 (評価方法～観察, 発言, ワークシート)

【学習テーマへの関心・意欲】

十分に満足できる (A) : 積極的に動物を見て、触れて、その動物の特徴や生き物のあたたかさを実感し、感想や疑問をもっている。

おおむね満足できる (B) : 積極的に動物を見て、触れて、その動物の特徴や生き物のあたたかさを実感し、感想をもっている。

努力を要する児童への指導 : 動物と触れ合ったり、観察したりできるよう一緒に活動し、感じたことをワークシートに書くように伝える。



モルモットの心臓の音を聞いている様子

4 取り入れたアクティブ・ラーニングの視点と授業改善のポイント

(1) 授業のねらい

【アクティブ化シートB-①（課題意識重視）】

～動物との触れ合いにより、動物への興味・関心を高める～

旭山動物園のメッセージである“命の輝き”について考え、自分なりの答えを出すことを単元のねらいとして設定した。より主体的な学びとするために、実体験（「触れ合い体験」と「触れ合えない体験」）を設定し、双方を比較していくことで、その体験の違いに疑問が生まれると考えた。

そこで、本時の「触れ合い体験」では、数種類の動物と“触れ合い”，動物の体温や重さ、心拍数や触感などに注目することで、動物への興味・関心を高めることをねらいとしている。また、感じたことや気付いたことを友達同士や旭山動物園の飼育員さんと交流することで、より理解や関心を深めていきたい。

次時の「触れ合えない体験」は、“観察”して動物への理解を深めることをねらいとしている。「触れ合い体験」との違いを十分に感じられるよう仕組んでいきたい。

(2) 成果

- 本時の導入を簡潔にすることで、展開の体験活動の時間を十分に確保することができた。
- 子どもたちに気付かせたいことを事前に飼育展示係さんと打ち合わせをすることで、教師のみならず、飼育展示係さんからの声掛けも大変効果的なものになった。「各部位に注目して観察すること」や「人間と比べて心拍数はどうか」、「ウサギとモルモットの違い」などである。実際に動物と触れ合うことで、「ふわふわしている」「目が大きい」「鳴き声が聞こえた」「心臓がバクバクいっている」「人間よりも心拍数が早い」「モルモットよりもウサギの方がずっと重たい」などと児童からさまざまな気付きの声が上がった。
- “動物と向き合う”場を十分に設定したことで、児童同士で感じたことをその場で語り合う姿も見られた。

(3) 改善

改善のポイント

本時の展開では、“体験前の自分”と“体験後の自分”を比較する児童の姿はほとんど見られなかった。本時の体験活動の前に、2年生の生活科でモルモットを飼育した経験などを思い出し、交流しておくことで、より“生き物”に対しての興味や関心が高まり、活動がさらに効果的になったのではないかと考えた。合わせてワークシートの形式も工夫し、体験前と後と比較できるようにする。全体交流では、比較をもとに話し合いができると、自分たちの成長へ気付きや事象への理解が深まったと考える。

なお、本時では体験活動の時間を十分に確保したいため、交流の時間の確保は前時で行うものとする。